

九州建設専門工事業 ニュース

題字は日高名誉会長筆

発行所 (一社)福岡県建設専門工事業団体連合会 〒810-0022 福岡市中央区薬院1丁目6-5 ホワイト薬院506号 電話092(406)6776番 発行人 杉山 秀彦

鞍手竜徳高生に作業体験 整備局と九州建専連が出前授業

九州地方整備局と建設業で、安全を守る使命感や誇りを持って技術者は仕事をしたい。それを念頭に置き、ものづくり

九州地方整備局と建設業で、安全を守る使命感や誇りを持って技術者は仕事をしたい。それを念頭に置き、ものづくり



鞍手竜徳高等学校の生徒らに、九州地方整備局と九州建専連が、現場での作業体験と出前授業を行った。

労務費の基準担保を 福岡県と意見交換

九州建専連

建設業専門団体九州地区連合会(杉山秀彦会長)は3月5日、福岡市の吉塚合同庁舎で福岡県との意見交換会を開催し、労務費の基準が確実に担保されることや、適切な変更契約などを求めた。県は工事契約を締結する際に専門業者との取引の適正化や



建設業専門団体九州地区連合会(杉山秀彦会長)と福岡県との意見交換会が開催された。

「電気工事」(日本電設工業協会九州支部)、「解体工事」(福岡県解体工事業協会の作業を体験した。出前授業には同校卒業生も教える側として参加し、生徒が親しげに指導を受けている様子も見られた。

その後、生徒らは各作業場所へ移動。プロによる説明やお手本などの後、「足場設置」「協力団体は福岡県高土工業連合会」「鉄筋カス圧接(西日本圧接業協同組合)」「鉄筋結束(福岡県鉄筋事業協同組合)」「型枠組立(日本型枠工事業協会九州支部)」、

建専連が経営革新研修会 標準労務費の活用など学ぶ



建設業専門団体連合会(杉山秀彦会長)は2月4日、九州地区における令和6年度「建設専門業の経営革新支援研修会」を福岡市博多区の八幡閣で開催した。

関係者約30人が参加し、適正な労務費等の確保のための標準労務費の活用、外国人技能実習生受け入れ事業について理解を深めた。開会に当たり、杉山会長は「人手不足、担い手不足を克服するためには、進めることを求めたほか、分離発注が行われていない塗装、防水などの工事について、実態の把握を促した。

冒頭、杉山会長と野口課長があいさつ。杉山会長は「専門工事業者の長年にわたる地道な活動が、昨年の建設業法改正という形で表れ大変うれしく思っている。労務費の確保な行き渡りは企業の利潤が確保されることにも、建設業への入職を促すものだ」と期待を込めて、改正が実効性のあるものにするためにも、行政と業界が認識を共有し、有意義な意見交換にしたい」とあいさつした。

野口課長は「昨年、いわゆる担い手三法が改正され、これまで以上に官民一体となって担い手確保、建設工事従事者の安全や健康に関する意識の向上、処遇の改善等を図ってほしい。魅力ある建設業界の構築に向けて、意見交換を通じて、県の今後の取り組みの参考としたい」と語った。

今年度の議題は▽労務費の基準の担保等▽適正な工期の設定および時間外労働規制への対応▽建設キャリアアップシステム(CCUS)の活用▽地元中小建設業の受注拡大と専門業者育成▽現場作業時間の改善。建専連は労務費の基準の担保等について、中央建設業審議会が労務費の基準(標準労務費)を作成・勧告し、著しく低い労務費等による見積書の作成や変更依頼を禁止することを説明。県に対し

このに対し県は「工事請負契約を締結する際に専門業者との取引の適正化や労働者への適切な水準での賃金支払いについて指導を求めている。また、令和4年10月から労働関係法令の遵守および最低賃金額以上の賃金支払いを強く求めることを特記事項として工事請負契約書に追加しており、今後も適切な賃金支払いや賃金の行き渡りについて取り組んでいきたい」と説明した。

また、建専連は「工事請負契約を締結する際に専門業者との取引の適正化や労働者への適切な水準での賃金支払いについて指導を求めている。また、令和4年10月から労働関係法令の遵守および最低賃金額以上の賃金支払いを強く求めることを特記事項として工事請負契約書に追加しており、今後も適切な賃金支払いや賃金の行き渡りについて取り組んでいきたい」と説明した。

また、建専連は「工事請負契約を締結する際に専門業者との取引の適正化や労働者への適切な水準での賃金支払いについて指導を求めている。また、令和4年10月から労働関係法令の遵守および最低賃金額以上の賃金支払いを強く求めることを特記事項として工事請負契約書に追加しており、今後も適切な賃金支払いや賃金の行き渡りについて取り組んでいきたい」と説明した。

(政府労災上乗せ補償+普通死亡保障)充実した制度 建団連共済会に入会しましょう!!

【建設業福利厚生制度】記名+無記名式

(A型)総合共済制度

1口につき
月会費1,100円で
労災死亡930万
一般死亡230万

※『経営事項審査制度』*
下請け担保で加点評価



【建設業福利厚生制度】無記名式

(B型)建設安全共済制度

1口 月会費300円で労災死亡500万
おひとり様3口まで加入でき、労災死亡も1500万と安心

ますます充実魅力を増した
最良の共済制度にぜひ入会を!

会員の皆様御紹介よろしくお願ひします。 (お問い合わせ・お申込み) **建団連共済会事務局** 〒810-0022 福岡市中央区薬院1丁目6-5 ホワイト薬院506号 TEL 092(406)6776 FAX 092(406)6701

支部状況などで情報交換 九鷹の第3回理事会開く



九州鷹土工事業連合会(杉山秀彦会長)は3月27日、「令和6年度第3回理事会」を福岡市博多区の八幡閣において開催、九州各県および沖繩の理事の状況と今後の見通し、活動状況、人手不足の現状等について意見を交わした。

九鷹の支部状況報告では、各支部状況報告では、仕事量について北九州地区、佐賀、長崎、大分、宮崎、鹿児島では落ち着く一方、福岡地区は天神周辺および博多駅周辺での再開により年末から人手不足が懸念され、熊本はTSMCの第2期工事年内に始まる予定の他、半導体関連での工場建設やマンションなど多忙となる。また沖繩では大型リゾートホテルなどの計画があり、夏ごろから人手不足になるとしている。

次世代のための処遇改善を 日本型枠九州が理事会



(一社)日本型枠工事業協会九州支部(池之上和夫支部長、会員数93社)は2月12日、「令和6年度第3回理事会」を福岡市博多区の八幡閣で開催、総会や秋季研修会の日程、本部50周年式典への参加状況、特定会員の年間費の値上げについて意見を交換した。

「労務費の基準に関するワーキンググループの検討状況」について事務局の天方事務局長が説明した。また、7年度の定期総会は7月17日(木)に開催することも決定した。

優勝は飯森飛鳥氏(九州ワーク)

第11回西圧協ガス圧接技能大会



西日本圧接協同組合(松本一彦理事長、会員数33社)は3月23日、「第11回西圧協ガス圧接技能大会」を福岡市の福岡県職業能力開発協会で開催した。遠くは岡山市や広島市など西日本から選ばれた12社・19人が参加して技術を競い合った結果、飯森飛鳥氏(九州ワーク、鹿児島)が写真左が最年少(25歳)での優勝(国土交通省九州地方整備局長賞)となった。

開会式で大会実行委員長松本理事長は、「鉄筋継手工法の中でも、ガス圧接工法は一番歴史が古く信頼される継手だが、そのガス圧接技術も機器の改良等により進化してきた。しかし、その機器を使用するのは技術者であり、日々の教育訓練が不可欠となる。本大会が技能向上の契機となり、後世への技術伝承となることを願う」とあいさつ。

「壱之内」工務店、鹿児島県特定技能候補者との面接が予定。会員企業による技能実習生の在籍者数は、昨年9月時点で回答数281社のうち211社で1人以上が在籍、11人以上も26社(9%)の結果となった。

第三者機関設置検討を 中建審労務費基準WG

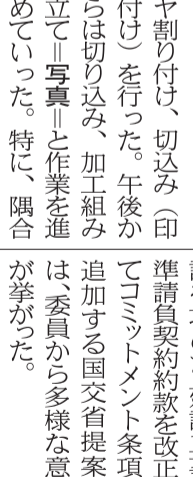
日建連、全建

2月27日に開かれた中央建設業審議会の第4回労務費の基準に関するワーキンググループ(WG)で、労務費の基準(標準労務費)の効力確保に向けた取り組みの一つとして、行政(国、都道府県)と民間(建設業団体)が連携して第三者機関の設置を検討してほしい」と述べた。

WGは、▽契約段階▽支払い段階▽公共工事の三つに分けて、実効性確保に向けた取り組みを検討することとしている。支払い段階の取り組みを議論した第4回会合で国交省は、労務費と賃金の性質の違いや建設Gメンのマンパワーに限られてくることから、労務費支払い状況の確認は国が行い、賃金支払いは建設業協会が行い、賃金支払い状況の確認は官民で分担することを提案した。

が必要だが、少なくとも現在ある建設業団体は、さわくはない」と指摘し、「業界団体ではない中立的な機関とした方がいいのではないかと述べた。駐車違反対応業務を民間委託する道路交通法の仕組みを例に挙げ、「建設Gメンの指導監督業務を適格性のある民間法人に委託できる制度の創設も検討してはどうか」とも話した。

技能検定の事前講習を開催 福岡地区型枠工事業福友会



福岡地区型枠工事業福友会(加来勝之会長)は1月5日、「型枠大工1・2級技能検定事前講習会」を福岡市東区の福岡県職業能力開発協会において開催した。受講者は1級26人、2級1人の計27人。そのうちこれまでの講習会では初の女性1人が挑戦したが、ベトナム国籍の20代の男性9人も参加した。

行事日程

- ▽4月4日(金)18時「福岡県タイル商工会定期総会」、和風旅館弥太郎・華杏(福津市)にて。
- ▽5月19日(月)16時半「(一社)日本型枠工事業協会九州支部令和7年(第65回)定期総会」、八幡閣(福岡市)にて。
- ▽5月29日(木)14時20分「(一社)日本型枠工事業協会創立50周年記念式典及び祝賀会」、東京会館3階ローズ(東京都)にて。

は、D32mmとD25mmの鉄筋をアセチレンガスと酸素で3000℃に加圧したガスで圧接する実技競技を行った。選手たちは声を出して安全確認しながら、6本の鉄筋を圧接した。実技終了後に学科試験も行われた。審査は、圧接の出来栄を、D32mmとD25mmのえや作業時間、曲げ試験、外観検査、学科試験などで満点は233点で採点された。審査の結果、2位(全国圧接協同組合連合会長賞)は写真中央は尾崎魁飛氏(栄進工業、福岡)、3位(西日本圧接協同組合理事長賞)は江上陽輔氏(平木工業、長崎)となった。

表彰式の後、松本理事長は「4位と5位が同点だったが、今回から外観検査の点数が高い方が上とした。外観検査での膨らみ形状では偏芯しているものもあり、作業姿勢や圧接部の調整などを再度確認し、安全作業を心掛けてほしい」と講評した。

試験時間の標準時間は、1級が4時間40分、2級は4時間。午前中は説明や図面の作業、ベニヤ割り付け、切込み(印刷)を行った。午後からは切り込み、加工組み立て、写真と作業を進めていった。特に、隅合板接合部の勾配の出し方や法蓋隅の機木の勾配の出し方など、墨の線一本分が狂うとも合わなくなるから慎重に加工していた。受講者は今回の講習を通し、自身に課せられた課題を克服すべく練習に取り組むたいとしている。

本試験は、実技が1月21・22日、学科が1月26日午前中、ペーパーが1月26日午後(1級のみ)となっている。同講習会は年々外国人が増え、上部団体である日本型枠工事業協会の雇用実態調査では、全年齢層の新規入職者に占める外国人材の割合は65%に達し、なくてはならない存在になっているという。